

いつ見ても新しい。  
芹沢デザインの粋。

「窓文のれん」(1970) 柏市蔵

2023年  
10/7(土) ⇒ 12/10(日)

【出品協力】 柏市、株式会社すずや、日本民藝館

静岡市立 芹沢銈介美術館

静岡市駿河区登呂五丁目 10-5 (登呂公園内)  
TEL ▶ 054-282-5522 HP ▶ [www.seribi.jp](http://www.seribi.jp)  
Twitter ▶ @seribi\_shizuoka (フォローはこちら⇒)



芹沢銈介の  
のれん

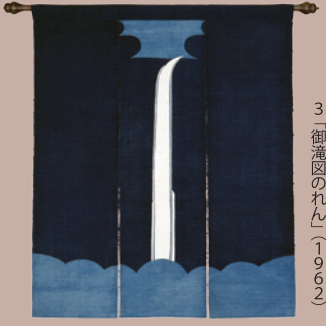
「私は、染もの、中でも終始暢々働ける『のれん』のしごとを好みます。」※



1 「牡丹文のれん」(1960)



2 「安の字のれん」(1971)



3 「御滝図のれん」(1962)



4 「染屋文のれん」(1960)



5 「機文のれん」(1955)



6 「女人像のれん」(1975)



7 「『すずや・寿』の字のれん」(1960頃)



8 「打てや双手を文のれん」(1975)



9 「紐文登世」(1960)

芹沢銈介は、染色に専念するようになった30代から「のれん」を手がけています。持ち前の卓越したデザイン力を発揮し、文字、風景、人物、工芸品など、多彩な模様を次々のれんに表現していきました。やがてのれんは、一般家庭に普及して暮らしを彩るとともに、芹沢の仕事の中にも大きな一角を占めるようになります。その数は少なくとも300種類以上にのぼり、巨匠として国際的な評価を得た80代に至るまで、途切れることなく制作が続けられました。この展覧会では、芹沢ののれん約50点を展示し、初期の作品、60代ころの名作、晩年の作品、店舗用ののれんに至るまで、幅広くごらんいただけます。

〔 図版の所蔵先は、2が日本民藝館、5・7が株式会社すずや、4・6・8が柏市、1・3・9が静岡市立芹沢銈介美術館。 〕

※ 絵本『のれん集』(1965) 付録より



肉筆手控帖『のれん上』(1948頃)より

## のれんのための膨大なアイデア

300種類以上ののれんを制作した背景には、膨大な数のアイデアがあります。書き溜めたアイデアを1冊の本にまとめた『のれん上下』や、メモパッドに即興で描いた肉筆画など、のれんの元となった資料もご覧いただけます。

## 同時開催

### 芹沢銈介が集めた台湾先住民の工芸

「男子礼装用の上着」(台湾本島北部山地/タイヤル族) ▶



展示室後半の3室には、芹沢銈介の収集品から、台湾先住民の工芸をご紹介します。中でもその染織はアンデス、コプトとともに世界の染織の最高峰と称され、芹沢も愛してやまなかった品々でした。上衣、喪帽などの優れた染織品を中心に、約80点を展示します。

【開館時間】9:00 ~ 16:30

【休館日】毎週月曜日(10/9は開館)、10/10、11/24

【観覧料】一般420円/高校生・大学生260円/小学生・中学生100円/未就学児無料

(団体割引は30名以上でご利用いただけます)

※静岡市内在住の70歳以上の方・小中学生(通学含む)無料

※障がい者手帳等の提示により本人及び同伴者1名無料

【交通】

<バス> 静岡駅南口 22番バスのりばから「登呂遺跡」行き乗車、約10分終点下車

<タクシー> 静岡駅南口から登呂公園へ約10分

<東名高速> 静岡I.C. または日本平久能山スマートI.C. より約10分

<駐車場> 登呂公園南側に有料駐車場があります(1日400円)

●会期中のイベントについては、ホームページやTwitterをご覧ください。お問い合わせください。

## 静岡市立芹沢銈介美術館

静岡市駿河区登呂五丁目10-5(登呂公園内)  
TEL ▶ 054-282-5522 HP ▶ www.seribi.jp  
Twitter ▶ @seribi\_shizuoka (フォローはこちら)

